

チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 132 2025 年 10 月 10 日発行

2026 年チェルノブイリ救援カレンダー お申込み受付中

КАЛЕНДАРЬ НА 2026 ГОД (40 ЛЕТ ЧЕРНОБЫЛЬСКОЙ АВАРИИ)



2026 チェルノブイリ40周年救援カレンダー

制作 © チェルノブイリ子ども基金

カレンダーの表紙: カルパチア山中での保養に参加した
ウクライナ・ジトーミル州の放射能汚染地域の子どもたち

★2026 年チェルノブイリ救援カレンダー
が完成しました。今年 2 月～3 月に開催
したウクライナの子どもたちの絵画展の絵
と、その子どもたちが通う芸術学校やウク
ライナとベラルーシの子どもたちの保養の
様子を収めた写真で構成されています。

★カレンダーの収益は、チェルノブイリと
福島原発事故により被災した子どもた
ちの救援のために使われます。

★今後の支援継続のため、みなさまの
ご協力をどうぞよろしくお願い致します。
詳細は 8 頁をご覧ください。

★カレンダーの宣伝チラシも同封してい
ます。40 周年の節目にあたり、周りの
方々へも広めていただけましたら大変あり
がたいです。



保養に参加したウクライナの子どもたち



保養に参加したベラルーシの子どもたち

*** 目次 ***

p.2～4	ウクライナ	子どもたちの保養
p.5～7	ベラルーシ	子どもたちの保養
p.8	2026 年救援カレンダー	
p.9	オウルチ子ども芸術アカデミー	

p.10～11	ベラルーシ	家族からの手紙
p.12	ウクライナからの便り	
p.13	ウクライナ	家族の状況
p.14	「311 子ども甲状腺がん裁判」原告の訴え	
p.15	募金・救援状況	p.16 事務局から

放射能汚染地域に住む病気の子どもたちのための保養

2025 年 夏 ウクライナ・ベラルーシ

ウクライナでは戦争が続く中、今年も同国西部の山あいにある施設で子どもたちの保養を実施することができました。ベラルーシには今も日本からの送金ができず、ドイツ団体の協力を得ることで、子どもたちの保養を実施することができました。2023 年まで実施していた「チェルノブイリ事故被害者家族の保養」は今年も資金不足により実施を見送ることになりました。

ウクライナ

- 場所：子ども保養施設「リバー・キャンプ」
イワノ・フランキウスク州ミクリチン村
- 期間：2025 年 8 月 21 日～8 月 30 日（10 日間）
- 参加者：子ども 33 人（10～16 歳／ジトーミル州オヴルチ市、ナロジチと周辺の村より）、引率者 4 人
- 参加者の病名：慢性気管支炎、慢性扁桃炎、心臓疾患、咽頭炎、慢性膀胱炎、側弯症

保養に参加したのは放射能汚染地域、ジトーミル州オヴルチとナロジチの学校に通っている慢性疾患を患っている子どもたちです。子ども基金が支援をしている「オヴルチ子ども芸術アカデミー」の子どもたちも参加しました。

「チェルノブイリの子どもたちの生存」

ザクレフスキー代表からの報告

8 月 21 日の早朝、オヴルチで子どもたちを乗せたバスはナロジチへ。ナロジチを出発の際、参加者の中で一番年下の男の子が泣いていました。両親と離れて一人で泊りに出かけるのが初めてだったからです。でもバスに乗り込むときには泣き止

んでいました。屋前には子どもたちを乗せたバスは無事に保養施設に到着しました。

到着後は毎日、川や山の自然に触れたり、施設側が開催する様々なイベントに参加したりして過ごしました。気温が 10～15 度という涼しい気候が続いていましたが、滞在最後の 2 日間はようやく 25 度くらいまで上がり、子どもたちはプールを満喫しました。そして、日本の支援者の方からいただいた折り鶴は子どもたちの手に届きました（p.9 参照）。

<子どもたちの感想>

●ビクトリア・G 15 歳 オヴルチ市

みなさんのおかげで、チェルノブイリ地域の私たちは自然を満喫し、新しい友だちと楽しい時間を過ごすことができました。私たちの生活をより明るく、より興味深いものにしてくださったことに心からの感謝と喜びを感じています。食事はとても美味しく、健康的で、種類も豊富でした。山登り、ブランコ、競技会、イベント、ディスコなどを楽しみました。おかげで日々の心配事を忘れ、心からリラックスすることができました。私たちの部屋のバルコニーからは、山々の素晴らしい景



色を眺めることができ、その雄大さに心を奪われました。キャンプでの毎日は新たな感動、冒険、経験、そしてかけがえのない思い出で満ちあふれ、幸せで忘れられない思い出となりました。この思い出は永遠に心に刻まれます。

●アリーナ・E 14歳 オヴルチ市

この保養は私にとって、喜びと発見、そして新しい出会いに満ちた特別なものとなりました。多くの友人と出会い、様々な楽しいイベントに参加しました。みんなで歌ったり、遊んだり、勉強したり、楽しい時間を共有し、互いに支え合いました。毎日新しい感動があり、とても幸せでした。この旅を通して新しいことを学び、自分に自信を持つことができました。そして、たとえ住んでいる国が違って、友情と相互尊重は人々を近づけるのだと実感しました。みなさんのご支援のおかげで、このような素晴らしい時間を体験することができました。この思い出は永遠に私の心に残るでしょう。

●イリーナ・T 15歳 オヴルチ市

保養に参加したことで心からくつろぎ、新しい人々と出会えたことに感謝します。空襲警報により地下に隠れなければならない私たちが、安全で楽しい環境で過ごす機会を得ることができました。毎日楽しく充実した時間を過ごし、遠足やコンテスト、ディスコなどに参加しました。特に周囲の山々の美しさに心を奪われました。みなさんのおかげで、困難な時期でも喜びと安らぎを感じることができました。

●マリア・D 11歳 オヴルチ市

みなさんは私を保養に招待してくれただけでなく、喜び、友情、そして新しい発見に満ちた忘れられない日々をプレゼントしてくれました。本当にありがとうございます。みなさんのおかげで世界が少し明るく、優しく思えるようになりました。このことを忘れません。

●ミキータ・L 14歳 ナロジチ

国境の村ナロジチ出身です。ナロジチ高等教育学校に通い、3Dモデルを作成しています。カルパチア山地での保養に招待され、とても嬉しく思いました。ナロジチでの生活は、必ずしも穏やかではありませんので…。キャンプは本当に楽しかったです。美しい山々の景色、穏やかな雰囲気の中で過ごしました。また絵のように美しいブコヴェルとヤレムチェ※という2つの町を訪れました。山に登ったり、プールで泳いだり、いろいろなことを楽しみました。新しい友だちがたくさんできて、多くの感動と前向きな気持ちを得ることができました。チェルノブイリ子ども基金に感謝します。みなさんは最高に素晴らしいです！

●オレクサンドル・K 16歳 ナロジチ

この保養は僕にとって夏の素晴らしい思い出となりました。絵のように美しい滝のあるヤレムチェやブコヴェルなどを訪れることができ、とても楽しかったです。僕はサッカーとトレーニングをすることが大好きです。この保養に参加したことで、自分はスポーツで成長したいというエネルギーと意欲がさらに高まりました。



●ヴェロニカ・M 15歳 ナロジチ

この保養は、新たな出会い、忘れられない感動と喜びにあふれていました。ヤレムチェとブコヴェルへの遠足で、山々の雄大さ、滝の美しさ、そして素晴らしい景色に感動し、あたたかな思い出が残りました。毎日が新しい冒険でいっぱいでした。ハイキング、コンクール、スポーツ、ゲーム、そしてあたたかな雰囲気が、この休暇を忘れられないものにしてくれました。これから自分はもっと勉強して成長していこうという意欲が湧きました。たくさんの楽しい思い出を家に持ち帰りました。みなさんの優しさとお気遣い、そして子どもたちを幸せにしてくださったことに感謝します！

●タラス・Y 13歳 オヴルチ市

この保養のおかげで、僕は心からの喜びを感じ、諦めないで頑張ろうという気持ちになりました。毎日が楽しく、あたたかい出会いと誠実な雰囲気で満たされていました。スタッフたちの対応と気配りのおかげで、心から快適に過ごすことができ、カルパチア山地と山々の景色の素晴らしさを存分に味わうことができました。特に素晴らしいと思ったのは、僕たちの世話をしてくれた人たちの優しさと、この保養を忘れられないものにしたいという真摯な思いによりすべてのことが行われていたことです。この日々は僕の心に永遠に残るでしょう。素晴らしい保養を企画してくださったチェルノブイリ子ども基金に心から感謝いたします。

●オレクサンドル・V 14歳 オヴルチ市

カルパチア山地での休暇は、冒険と、明るく輝く思い出に満ちていました。この素晴らしい場所を訪れることができたことに、とても感謝しています。新鮮な空気、山や川などの素晴らしい自然に触れ、心がとても落ち着きました。キャンプの雰囲気はとても良く、まるで自分の家のようにくつろげました。リバー・キャンプには快適な環境、興味深いイベント、美味しい食事、そして親切なスタッフの方々が揃っていました。保養に招待してくださりありがとうございました。

※ブコヴェル：「リバー・キャンプ」から約 25 km のウクライナで有名なアルペンリゾート。

ヤレムチェ：カルパチアの有名な観光地の一つで、「リバー・キャンプ」から約 10 km。



8/23 はウクライナ国旗の日、8/24 は独立記念日でした。
子どもたちは民族衣装で記念写真を撮りました。

ベラルーシ

■場所：子どもリハビリ・健康回復センター

「ナデジダ（希望）」ミンスク州ビレイカ地区

■期間：2025 年 8 月 4 日～8 月 20 日（17 日間）

■参加者：子ども 30 人（8～17 歳／ゴメリ州ゴメリ市、ゴメリ地区、レチツァ市、チェチェルスク市、モーズィリ市、ドーブルシ地区）、引率者 2 人

■参加者の病名：脳腫瘍、ホジキンリンパ腫、腎臓がん、目の腫瘍、肝臓がん、後腹膜神経芽細胞腫、線維肉腫、骨肉腫、血小板減少性紫斑病、神経線維線種、腺様嚢胞がん（これらの病気以外にもさまざまな慢性疾患を抱えている。）

保養に参加したのはベラルーシの NGO「困難の中の子どもたちへ希望を」に会員として登録している病気の子どもたちです。日本の里親から支援を受けている子ども 14 人も参加しました。

ベラルーシとドイツの NGO により設立・運営されていた「ナデジダ」は、2024 年 9 月に 30 周年を迎えましたが、今年 4 月に国立の施設となりました。この変化が保養プロジェクトにどのような影響をもたらすのか心配していましたが、今のところは以前と変わらず、子ども基金以外にも外国の NGO の保養プロジェクトは継続して行われています。そして今年の子ども基金の保養プロジェクトは、これまでと変わらず無事に行うことができました。



ソコロワ・K（小児科医）、アブラーモワ・N（教育者）、ポホドニャ・A（カウンセラー）からの報告

参加者は全員、腫瘍病、血液病、リンパ系の病気の子どもです。子どもたちは手術、治療後は免疫力が低下し、体調が思わしくない時や、気分が沈みがちなこともあります。これまでに何度かナデジダに保養に来ている子どもが多かったため、保養の環境にすぐ慣れることができました。年齢の高い子どもたちは、8～9 歳という小さい子どもたちの面倒をよく見ていました。

ナデジダの小児科医の診断により、それぞれの体調に適した治療（マッサージ、温浴療法、療養体操、薬草療法、アロマテラピーなど）が決められます。午前中は治療、午後はクラブ活動や催し物が行われます。食事は三食の他に、おやつ（果物、ヨーグルト等）を提供しています。食物アレルギーのある 12 人の子どもには代替りの食べ物提供されました。

自然の中で多くの時間を過ごすことも健康回復に大きな役割を果たします。敷地内にある鉄棒、ブランコや滑り台などの遊具の他、卓球台、バレーボールやサッカー場などで自由に体を動かすことができます。きのこやベリー類を探しながら森を散策することもできます。

子どもたちの創造的活動も重視しています。陶芸、木工細工、手芸、絵画、折り紙、演劇、ダンス、音楽などのクラブ活動があります。保養の最後には作品の展示や、練習の成果の発表会が舞台上で開かれます。このようなことを通して、自分に自信を持てるようになった子どももいます。



参加者のうち2人の子どもは、自分の家族が亡くなったことへのショックを抱えていたため、個別のカウンセリングを受けました。自分の悲しみにどのように向き合うのか、ストレスを緩和するための呼吸法、筋肉の緊張をとる方法などを体得しました。また、対人コミュニケーションに困難を抱える別の2人の子どもも個別カウンセリングを受けました。保養終了後に行ったアンケートでは9割の子どもが「体調が良くなったと感じる」と答えています。そして子どもたちはみな、日本のチェルノブイリ子ども基金への感謝の言葉を書いています。

<子どもたちの感想>

●ジェーニャ・Z 14歳 ドーブルシ地区

日本のみなさん、保養に招待してくれてありがとうございます。毎日とても楽しくて、体調もよくなりました。特にディスコと、木焼きアート（電熱ペンを使い木材に絵を焼き付ける）の教室が楽しかったです。それからマッサージと、吸入治療（呼吸器系の症状を緩和するための治療）を受けました。ナデジダのよいところは、空気がきれいなことと、食事がおいしいことです。

●ウラディスラワ・S 9歳 ドーブルシ地区

ナデジダに行くのを心待ちにしていました。そこでどんな友だちや先生に会えるのか、どんなことをしながら過ごして健康になれるのかも楽しみにしていました。ナデジダに向かう途中、たくさんのコウノトリを見ました。それは本当に美しい光景でした！



到着すると、私たちはあたたかく迎え入れられ、滞在することになる部屋に案内されました。私たちはリラックスして楽しい時間を過ごしました。粘土細工、折り紙、ビーズ細工のクラスに参加しました。どれもとても楽しかったです！毎日行われるいろいろなイベントやコンテストにも参加しました。友だちと林の中を散歩したり、いろいろな遊具で遊ぶのも楽しかったです。それからフィールドアスレチック（ドイツ NGO の支援で作られた施設）では、自分の力を試して4つのレベルをクリアすることができました。この保養でたくさんの新しい友だちができました。一緒に夜のディスコや映画会に行きました（どちらも施設内で夜に行われる）。私に決められた水治療、塩療法（岩塩の壁の部屋に座り、空気を吸い込む。呼吸器の病気に効果があるとされている）を受け、療養体操をして、薬草茶を飲みました。アロマセラピーでは松の香りを体験しました。松の独特の香りは体に良いそうです。毎回の食事でも美味しく、特に魚のスープが好きでした。あっという間に時間が過ぎて、もう帰る時間になってしまったのが寂しいです。またここに帰って来たいです！

●マルガリータ・S 13歳 ゴメリ市

ナデジダにいる間の私は毎日、前向きな気持ちであふれていました。午前中は治療を受け、午後にはいろいろなイベントやクラブ活動に参加し、夜はみんなでディスコに行きました。

私が受けた治療では、アロマセラピーと薬草茶がよかったです。クラブ活動では、絵画と木焼きアートが楽しかったです。私は友だちと一緒に多



くの時間を野外の新鮮な空気の中で過ごしました。そのせいか、よく眠れるようになり、体調も良くなったと感じました。食事はとても美味しかったです。ここで私は素晴らしい友だちができました。一緒にいろいろなことを体験して、とても仲良くなりました。この保養は忘れられない思い出をくれただけでなく、私の健康にもとても役立ったと思います。ぜひまたここに帰って来たいです。保養に招待してくださり、本当にありがとうございました。

●イワン・P 15歳 モーヰリ市

僕はナデジダでの保養が大好きです。ここにはたくさん友だちがいます。スポーツ大会、さまざまなゲームやコンクールが行われ、自分たちで劇も演じました。「ナデジダの天才たち」というイベントで僕は詩を朗読し、表彰状をもらいました。

ナデジダでは素晴らしい治療が受けられます。僕はマッサージと、塩療法などを受けました。看護師さんたちはみな優しく親切です。また素晴らしい森、自然があります。僕はいつもナデジダでエネルギーを蓄え、体調も少し良くなっていると感じます。食事とても美味しいです。それでここに来ると体重が少し増えます。

●リーザ・A 16歳 ゴメリ地区

ナデジダのような素晴らしい場所で子ども時代を過ごせたことを、みなさんに本当に感謝しています！そこには毎日新しい冒険があります。いろいろな治療、たくさんの面白い催し物、そして楽

しいディスコがあります。今年一番楽しかったイベントの一つは「世界の国々」というものでした。私たちのグループはギリシャのことを学び、民族舞踊を披露しました。また木焼きアートや絵画などの素晴らしいクラブ活動もたくさんありました。

ナデジダは森の中にあり、空気は新鮮で爽やかです。そして自然環境のよい貯水池が近くにあります。私たちはとてもリラックスして過ごしました。家族を恋しいと思う暇さえありませんでした！この保養に招待してくださり、本当にありがとうございました！

●ボグダン・K 17歳 ゴメリ市

ナデジダでは毎年新しい出来事があり、たくさんの思い出ができます。一番印象に残ったことは、友だちとの交流と、体調をよくするための治療です。今年はまた新しい友だちができました。みんなと一緒に過ごすのは本当に楽しかったです。食堂では以前なかった新たなメニューがありました。この保養に来ると僕はいつもとても前向きな気持ちになります。僕たちはここで単に健康回復のために過ごしたというだけでなく、毎年いろいろなことを一緒に体験し、共に成長していく友だちとの思い出がたくさんできました。それはかけがえないものです。このように素晴らしい体験をさせてくれたみなさんに心から感謝しています。明るく輝くような数々の出来事、幸せな気持ち、この保養のことを一生忘れないと思います。日本の友人のみなさん、ありがとうございます！



2026 年チェルノブイリ 40 周年救援カレンダー

～チェルノブイリと福島の子どもたちの救援にご協力ください～

2022 年 2 月に始まったロシア軍によるウクライナへの全面侵攻により、ウクライナのチェルノブイリ被災地に暮らす子どもたちは、さらなる苦難に見舞われています。また、ベラルーシ側被災地の子どもたちへの支援活動にも様々な制約や困難が生じています。どちらの国の子どもたちにも、平和で自由に、そして元気に暮らせる日が一日も早く訪れることを心より願い、2026 年カレンダーを制作しました。今年 2 月～3 月に開催したウクライナの子どもの絵画展の中から数点の絵と、絵を描いた子どもたちが通い、子ども基金が支援している「オウルチ子ども芸術アカデミー」や、ウクライナとベラルーシの子どもの保養の様子を収めた写真で構成されています。

カレンダーの収益は、チェルノブイリと福島原発事故により被災した子どもたちの救援金にあてられます。2025 年版の収益は 97 万円でした。今後の支援継続のため、みなさまのご協力をどうぞよろしくお願い致します。



定価 1,000 円 送料：9 部まで 200 円、10 部以上 300 円

- お申し込み方法：E-mail、Fax、または郵送でお申し込みください。
- お支払い方法：お届けするカレンダーに同封の郵便振替用紙でお振り込みください。
- カラー、サイズ：縦 30cm× 横 21 cm (見開き A4 サイズ)
- 写真提供：ウクライナ「チェルノブイリの子どもたちの生存」
ベラルーシ「子どもリハビリ・健康回復センター ナデジダ（希望）」
- デザイン：川島進デザイン室 ●発行・制作：チェルノブイリ子ども基金

※すでにご注文をいただいている方にもチラシを同封しています。順次発送致しますので少しお待ちください。

ウクライナ オヴルチ子ども芸術アカデミー

2025年2月～3月にかけて、東京と愛知県瀬戸市で、子ども基金が支援をしている「オヴルチ子ども芸術アカデミー」（ジトーミル州オヴルチ市）の子どもたちの絵画展を開催しました。その中で、返却を依頼されていた3枚の大きなガラス絵がオヴルチの子どもたちの元に無事戻りました。

右側上段の写真は、オヴルチに戻った後、市の文化会館で展示された絵と、アカデミーの絵画教室の子どもたちの様子です。なお、3枚の絵はオヴルチに戻りましたが、その他の絵は「非核・平和を求める写真・絵画展事務局」に所蔵しており、展示用に貸し出しをしています。

東京の絵画展を訪れたある女性の方から、小さな折り鶴で作ったストラップをたくさんいただきました。ウクライナのNGO「チェルノブイリの子どもたちの生存」に、夏の保養に関する書類を郵送する際この折り鶴を同封し、保養に参加する子どもたちに渡してほしいとメモを入れました。受け取った代表のザクレフスキーさんから、「この日本を象徴する鳥は、東京からキーウ（キエフ）の私のところに飛んできました。そして8月にはオヴルチ、ナロジチ、そしてカルパチアに飛んでいきます」と返信がありました。その後、子どもたちの手に届けられました。



写真中央・下：8月の保養に参加した子どもたちの掌に載せられているのは、1cm程の大きさの鶴が何羽も連なったストラップ。

★ウクライナの子どもの絵画展の開催をご検討の方は以下へお問い合わせください。
「非核・平和を求める写真・絵画展事務局」
(愛知県瀬戸市)

HP <https://nonukespeace.jimdosite.com/>
Tel. 0561-58-7568 (杉浦)



ベラルーシ 家族からの手紙

日本の里親から支援を受けている家族のうち、今年 8 月に行われたベラルーシの保養に参加した子どもの母親からの手紙を紹介します。親たちもナデジダでの保養の効果を実感していることが伝わってきます。しかし新たな病気が見つかる子どもや、再手術が必要な子どももいます。

* * * * *

●娘のカリーナ（12 歳）はナデジダに 5 年続けて保養に訪れています。チェルノブイリ子ども基金と日本のみなさんに感謝しています。みなさんのおかげで、娘は健康を取り戻せています。

ナデジダは、子どもたちにとって療養体操、マッサージ、水治療（渦流・気泡浴）など、適切に必要な治療が受けられる場所です。森と湖に囲まれた自然豊かな環境の中で、散歩をしたり、ブランコやサイクリングを楽しんだり、「感覚の道」

（下・左の写真、小石や木片などが敷き詰められた道を裸足で歩く）なども体験できます。「ナデジダ」の食事もおやつもすべて素晴らしく、健康のことを考えて作られていることがよく分かります。

娘は生後 11 カ月で胎児性横紋筋肉腫と診断されました。肺などへの転移もありました。化学療法と手術を受け、1 歳半でようやく小康状態となり退院しました。昨年（2024 年）の検査で、大腿骨や股関節に多くの問題が見つかり、他にも膀胱、甲状腺、腎臓、心臓にも病気が見つかりました。

健康状態は今のところ安定していますが、よく風邪をひいてしまいます。学校が大好きで、勉強を頑張っています。学校は他の療養所の保養券を発行してくれますが、それらの療養所には「ナデ

ジダ」で受けられるような必要なものがすべて揃っていないため、娘はそちらには行っていません。

「ナデジダ」は、健康状態の改善に非常に効果的な療養所です。素晴らしい環境、美しい自然を満喫し、必要な治療を受けることができたのは、チェルノブイリ子ども基金と日本のみなさまのご支援のおかげです。心から感謝いたします。

（カリーナの母 エレーナ）

●私の娘ソフィヤ（11 歳）は、みなさまのおかげで「ナデジダ」の保養に 3 回参加しました。彼女はナデジダが大好きです。毎回、娘はポジティブな感情でいっぱいになって帰ってきます。また保養期間中、常に子どもたちを注意深く見守り世話をしてくれたナデジダのスタッフと引率者の方々に心から感謝申し上げます。今回、ソフィアが特に気に入ったことがありました。多くの新しい女の子たちと友だちになったこと、食事が美味しかったこと、そしてマッサージが良かったことを話していました。娘は元気になり、リラックスして帰ってきました！支援してくださっている日本のみなさん、私たちの子どもたちのことを気にかけてくださり、このような保養施設に行く機会をくださり、本当にありがとうございます！



娘は生後 5 カ月のときに顎に腫瘍が見つかり、手術を受けました。その後 4 カ月間治療が続きました。2 年後に転移があり、半年間治療を受けました。そして現在は、下顎の 3 回目の手術に備えています。(ソフィヤの母 オリガ)

●ナデジダでの保養の機会をいただき、心から感謝申し上げます。ここはベラルーシで子どもの健康を回復するのに最適な場所だと申し上げたいと思います。基金のおかげで、マクシム(17 歳)はナデジダでの保養に 5 回参加しましたが、いつも素晴らしい体験をしています。おいしい食事、興味深いアクティビティ、素晴らしく有益な治療。息子は毎回、ここでの保養と友達に会うことを楽しみにしています。また、素晴らしい自然、きれいな空気、そして職員たちの親切で思いやりのある対応は、子どもたちの健康回復に大いに役立っていると思います。息子にこのような素晴らしい機会を与えていただき、ありがとうございます。みなさまのあたたかく寛大なお心に感謝します！みなさんは、困難な状況にある子どもたちを助けることで、世界をより良い場所にしています。

息子は 11 歳の時に首のしこりが気になり検査を受けたところ、顎下腺(唾液腺)の腺様嚢胞がんと診断されました。その後、手術と照射療法を受けました。現在体調は安定していて、半年に一度小児がんセンターに定期検査に通っています。

(マクシムの母 アンナ)



●チェルノブイリ子ども基金と、保養プロジェクトのためにご寄付をくださった日本のみなさんのおかげで、子どもたちはナデジダのような素晴らしい場所で過ごすことができました。

娘のエリカ(9 歳)は 8 月にこの保養所で過ごしました。すっかり明るく元気になり、前向きな気持ちで帰宅しました。エリカはそこで必要な治療を受けただけでなく、多くの時間を新鮮な空気の中で友達と散歩したり遊んだりして過ごしました。これらのことが彼女の心身の健康に良い影響を与えていることを確信しています。

エリカは 5 歳の時に腫瘍が見つかりました。化学療法と手術を受け、手術後も長く化学療法と放射線療法を受けました。今は半年に一度小児がんセンターの定期検査を受けています。

チェルノブイリ原発事故の影響による深刻な健康被害に苦しむ子どもたちを気遣ってくださる日本のみなさまに、心から感謝申し上げます。

(エリカの母 リュドミラ)



ウクライナからの便り

ウクライナの NGO「チェルノブイリの子どもたちの生存」ザクレフスキーさんからのメールの一部を紹介します。「生存」の事務所はキーウ（キエフ）中心にあり、ザクレフスキーさんの自宅も市内にあります。空爆のニュースなどがあると、本人から直接連絡があるまで、無事かどうか心配になります。

◆7月18日

子ども基金の6月号ニュースレターの中で最も印象的だったのは、最初のページに掲載されている瀬戸市の展覧会で女の子とその父親が絵を鑑賞している写真です。またナロジチ高等教育学校のチェルノブイリ原発事故の39周年行事の記事と写真が掲載されていることもとても嬉しく思いました。

木曜日（7/16）、子ども基金から書類とカレンダー、折り鶴が入った小包を受け取りました。鶴というこの象徴的な鳥は、東京からキーウ（キエフ）まで飛行した後、8月にはオヴルチ、ナロジチ、カルパチア山脈へと飛行を続ける予定です（p.9 参照）。

私が今回、この荷物をどのように受け取ったかをお知らせします。まず私は、ウクライナの郵便公社の支店（自分の住んでいる地域の）に行き、パスポートを見せ、すでにキーウに到着しているはずの、東京からの小包を探すように頼みました。荷物の番号を尋ねられましたが、事前に電話や郵便などで通知がありませんでしたので、番号を伝えることはできず、自宅の住所だけを伝えました。その後、職員は部屋の奥に入って行き、1分も経たないうちに荷物を持って出てきました。この間私は、住宅街にある普通の郵便局の小さなホールに4人の職員がいることに気がきました。それは中央郵便局の巨大な玄関ホールにいた職員の人数と全く同じでした。

素敵なカレンダーとプレゼントをありがとうございます！そして、東京からキーウまでの郵便騒動の間、忍耐強く対応してくれたことに心から感謝いたします。

※昨年12月中旬、キーウ市の中心にあるザクレフスキーさんの事務所宛に子ども基金のカレンダーを郵便小包で送ったところ、住所は正しいにも関わらず「宛所不明」という理由で3月に返送されました。

電話番号も記載していましたが、ザクレフスキーさんには何も連絡がなかったそうです。その後再度送り、送り状番号をザクレフスキーさんに伝えましたが、また何の連絡もなく再度日本へ返送されました。3度目は彼の自宅宛に送ったところ、ようやく届けることができました。因みに、昨年12月中旬、同時にウクライナのジトミル州オヴルチとナロジチの学校、病院に送ったカレンダーは無事に届いていました。（事務局）

◆9月1日

保養に参加した子どもたちの感想を送ります。これらを読みながら、多くの子どもたちがオヴルチとナロジチを「国境の町」と呼んでいることに気づきました。ここ数十年、このように呼ばれたことはありませんでした。この戦争の状況下で子どもたちがウクライナとベラルーシの国境の近さを痛切に、重苦しく感じているからではないかと思います。2022年に戦争が始まったのはこの国境からです。その後もかつて「兄弟国」であったベラルーシを通り実際の軍事的脅威が、この国境から続いています。

◆9月2日

9月1日は新学年の初日でした。保養に参加したナロジチの子どもたちが通う学校でも始業式が行われました。しかし始業式の行事の最中に空襲警報が鳴り、地下室に避難しなければならず、準備していた歌やダンスを行うことができなかったそうです。

◆9月3日

保養の写真を見ながら改めて気づいたのは、ウクライナの子どもたちは、実生活でも写真でもめったに笑わないということです。これは、戦争の中で育った新しい世代のウクライナの子どもたちだからだと思っています。ロシアとの戦闘が始まったのは2014年3月からです。この間、子どもたちは多くのことを経験し、考えてきたのです。ところで、9月2日、ベラルーシとウクライナの国境沿いで、ロシアとベラルーシによる合同軍事演習「ザーパド（西方）2025」が開始されました。まさにこのような合同演習をきっかけに、2022年2月、ロシアがチェルノブイリ地域を経由してウクライナへの本格的な侵攻を始めたのです…。

ウクライナ 家族の状況

里親支援、子ども基金が直接支援をしている家族の状況をお伝えします。里親の方が支援を継続できなくなった場合や、元々里親支援の対象でない（支援開始時に年齢が18歳以上など）ものの、多額の治療費がかかるなど特別な事情がある場合は、子ども基金の募金の中から支援をしています。それぞれの家族と連絡を取っているザクレフスキーさんからの報告です。

* * * * *

ウラディ斯拉フ・V (14歳)

家族は今もナロジチで暮らしています。両親は今年行くことになっていたキーウの病院の健康診断に、息子連れて行くことができませんでした。病院まで行ってもらえる運転手が見つからなかったからです。若い運転手たちは、ジトミル州からキーウへの道沿いにある軍事基地に動員されるリスクがあるため、長距離の旅を恐れています。

ワレーリヤ・K (19歳)

ジトミル大学1年生を修了し、6月初旬からジトミルの町で販売員のインターンシップをしています。ワレーリヤは免疫力が低下しているため、頻繁に風邪をひいていました。また、腎臓にも問題があります。母親と二人で暮らしています。父親は別居していて、娘への援助は何もしていません。

ウラディ斯拉フ・P (29歳)

今年2月にキーウの病院で定期検診を受けました。その結果、リンパ節への転移が見つかりました。キーウとジトミルの病院ではウラディ斯拉フの手術は行われませんでした。5月初旬にオヴルチの病院で手術を受けました。

母親のマリアも5月初旬に癌の手術を受けました。現在、ウラディ斯拉フはオヴルチ市で暮らしていて、母親はオヴルチ近郊の村の自宅で療養中です。

オレクサンドラ（サーシャ）・Z (18歳)

5月末にナロジチ高等教育学校を卒業しました。ウクライナ東部の戦地で今も働いている姉のヴェロニカも卒業式に出席しました。

サーシャは今、法学、あるいは軍法を学ぶた

めの入学試験に向けて熱心に勉強しています。体調も安定していて、病気の症状もありません。しかし、新しい教育機関に入学することになると、家族と離れて一人で生活しなければなりません。それによりサーシャの健康状態に何か影響が出ないかと、母親はとても心配しています。

ヴィクトル・Y (30歳)

ナロジチ近郊の村で、母親と障害のある姉と3人で暮らしています。母親のリュドミラは、自身も障害を抱えているにもかかわらず、病気の息子と娘に必要な薬や紙おむつを手に入れるのに苦労しています。その費用は年々高騰しています。息子と娘の健康診断については、もう少し国の状況が安定してからにするつもりだと、母親は話していました。

★キーウの状況について少しお伝えします。ここ数日は2度、ロケット弾とドローンによる激しい攻撃を長時間にわたって受けました。最初の砲撃で救助隊員3人が死亡し、さらに救助活動中に行われた二次攻撃で殺害されました。

弾道ミサイルが着弾すると、近隣の家の犬が大きな声で吠えるのに対し、うちの猫はミサイルが飛び交い、空中で爆発する音にほとんど反応しないことに、私と息子は気づきました。

ちなみに、ジトミルなどの地域も砲撃を受けました。しかし最も大規模な攻撃はキーウ、オデッサ、スームィに集中していました。

(ザクレフスキー・V 2025. 6. 11)

原発事故をめぐる「構造」に気づいた ～「311 子ども甲状腺がん裁判」の原告 瞳さんの訴え～

第15回口頭弁論が9月17日に東京地裁で行われた。この日、感動的な出来事があった。6月に追加提訴に踏み切り8番目の原告となった25歳の瞳さん（仮名）が、初めて法廷で裁判官に堂々と陳述し、その後の支援者集会でもステージの上に素顔で登場し、支援に感謝されたのである。

彼女の陳述の声をぜひお聞きください。（下記HPを聞き「ニュース第15回口頭弁論」をクリックすると支援者集会の映像が見られる。瞳さんの陳述は34分後から。ステージでの挨拶は1時間30分から）

<https://www.311support.net>

私自身、彼女の凛とした顔を見て涙を抑えられなかった。彼女は6年生の時に被曝。その後、高校2年で異常が見つかる。医師は「原発事故の前からあったがんで、見つかってよかった」と言い手術へ。彼女はそれを疑いもしなかった。しかし大学に入って「心が破たんした。原発事故後感情を抑圧していて、ついに壊れたのだと思います。幻聴・幻覚・錯乱状態に悩まされた」と語った。その後彼女は甲状腺がんに向き合おうと決心する。そして1年前にこの裁判を知った。提訴にあたりカルテを開示請求し、当時医師が嘘をついたと知った。事故とは関係がないがん、そう思い込まされる「構造」に気づいたのである。「この裁判は私にとって、大丈夫だったという呪いを解いていく作業でもあります。その過程で自分の一番、底の底にあった気持ちがわかりました。『怖い』『助けて』これだけでした。今、私はそう叫んでいる高校生の時の自分を、救う作業をしています」（311 子ども甲状腺がん裁判ニュース14号より）

この声をマスコミは報じない。多くの人々は事故後子どもたちに何が起きているかを知らない。チェルノブイリの子どもたちは悲惨な状況ではあったが、それでも世界中からの支援の声で励まされてきた。福島では既に300人以上が甲状腺がんの手術を受けているが、彼らは今も名前も出せない。彼らには何の責任もないのに、声を上げると差別される社会。そういう中で勇気をもって立ち上がり、ひっそりと生きている若者たちに、想いを馳せてほしいと願う。

東電はこの裁判で、甲状腺乳頭がんは、本来それ

以上大きくならず、生涯に亘り臨床症状が出ない「潜在がん」であり、福島で大規模なスクリーニング検査をしたので多数見つけてしまったと主張してきた。それに対し、6月25日の口頭弁論で弁護団は具体的なデータを示し批判した。原告6番は、2～3年間隔で行われている「県民健康調査」で、1巡目も、小学校4年の時の2巡目も「結節なし」だった。しかし中学1年の3巡目検査で17ミリの甲状腺がんが見つかり手術を受けた。毎年5ミリ以上の速さでがんが大きくなっていったのである。彼女のように3巡目で初めて悪性と診察された人は31名いたが、そのうち17名は2巡目では結節はなかった。原発事故前から甲状腺がんがあったのであれば最初のスクリーニングですべて見つかり、2巡目で以降で新たに見つかることはありえない。しかし、1巡目で約100名見つかったが、その後も200名以上が見つかっている。しかも潜在がんなら大きくならないはずなのに毎年大きくなっている。

また2021年までに福島県立医大で手術をした220名のうち、7名が肺などに転移しており、転移していなかった人のうち17名が既に再発している。手術しなくても心配ないという「潜在がん」ではないことは明らかである。

またもし「潜在がん」を手術したのであれば、過剰治療であり手術自体が誤っているというべきである。しかし東電側の杉谷意見書では「潜在がん」と言いつつ、「手術症例は臨床で見つかるがんと変わらず手術は合理的だった」と述べる。支離滅裂である。裁判官がこの点を理解すれば勝ると井戸謙一弁護団長は語った。

9月の口頭弁論では100ミリシーベルト以下ではがんにならないという東電の主張にも田辺保雄弁護士が科学的に反論した。それについては支援者集会の映像4分後から13分後まで見ていただきたい。また今回、菅谷昭前松本市長は、ベラルーシで多くの甲状腺がんの子どもたちを手術した経験に基づいた意見書を裁判所に提出した。

次回第16回口頭弁論は12月17日（水）に行なわれる。ぜひ一度傍聴に行ってみませんか。

小寺隆幸

（チェルノブイリ子ども基金 共同代表）



募金・救援状況



●募金状況

2025年6月～9月

(単位:円)

	6月	7月	8月	9月
募金件数	20	146	34	26
救援寄付金	15,000	607,670	144,150	554,460
保養費	0	133,055	15,000	8,500
里子支援	157,170	0	0	1,564,750
ウクライナ支援	0	256,000	31,000	22,500
ニュース購読費	0	72,000	12,140	14,000
合 計	172,170	1,068,725	202,290	2,164,210

上記の他、切手、文房具のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

●救援状況

2025年6月～9月

(単位:円)

<ウクライナ>	
◎チェルノブイリの子どもたちの生存	
子どもたちの保養費	2,155,148
里親支援金(半年分×4人)	178,680
緊急支援金(半年分×3人)	134,010
<ベラルーシ>	
◎困難の中の子どもたちへ希望を	
里親支援金(半年分×35人)	1,748,816
緊急支援金(半年分×6人)	403,176
スタッフ給料(1年分×4人)	356,888

*** 販売品 ***

- ◆マトリョーシカのマグネット
マトリョーシカのキーホルダー } 各 500 円
 - ◆ベラルーシ製リネンクロス サイズ 49cm×70cm 800 円
- ※送料別(実費)。子ども基金HPに画像を掲載しています。

～みなさまからのメッセージ～

- 絵画展に参加されたお一人お一人の肉声に元気をもらいました。(鳥取県)
- カレンダーの子どもたちの明るい笑顔に私の方が力づけられています。(神奈川県)
- ニュースで保養の様子を知り、うれしかったです。(東京都)

*** イベントのご案内 ***

収益の一部は「未来の福島子ども基金」を通して福島原発事故被災者の支援に充てられます。詳細は各主催者へお問い合わせください。

◆吉祥寺チャリティライブイベント フクシマを思う 第36回

10/30(木) 19:00 開演
武蔵野公会堂パープルホール
講演:野池元基(農民・雑誌発行人・電通研)、演奏:坂田明(サクソ)、栗田妙子(ピアノ)、朗読:金子あい(俳優)

主催:フクシマを思う実行委員会
問:fkomou@gmail.com

◆チャリティーコンサート No.16

12/13(土) 開場 13:30 開演 14:00
スペースオルタ(新横浜)
紙芝居:岡洋子(浪江町を中心に震災を語り継ぐ)、演奏:佐々木葉子(マリンバ)

主催:フクシマ応援隊
後援:未来の福島子ども基金
チェルノブイリ子ども基金
問:fukushima-oentai@ymail.ne.jp

★募金振込口座のご案内★

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都合のよい方法をご利用ください。※振込用紙以外でお振込の場合は、お名前、金額、ご寄付の内容のご連絡をお願いいたします。

(1)郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金

(2)ゆうちょ銀行口座 店番 019 店名 〇一九店(ゼロイチキョウ店)

預金種目 当座0098316 受取人名 チェルノブイリ子ども基金

(3)三菱UFJ銀行 支店名(番号):新宿中央支店(469)

口座番号:普通 1688367 口座名:チェルノブイリ子ども基金



事務局から

◆チャリティコラボ 福田博子・遊筆展(彩と墨による
書画) 2025年10月25日(土)・26日(日)10:00~17:
00 和光市民文化センター企画展示ホール(埼玉県)
主催:ハッピーエンディングをめざす会 Tel. 090-7209-
1147(かぎわだ) 共催:未来の福島こども基金
【関東1都3県にお住まいの方には上記イベントチラシを同
封予定です。それ以外の地域にお住まいの方でご関心がご
ざいましたら、お手数ですが別途お問い合わせ下さい。】

■「基金ニュースレター」について

ご寄付をくださった方に、使途の報告としてニュースレ
ターをお送りしています。ニュース購読費(2,000 円/
年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、
募金として使わせていただきます。

※ニュースレターは子ども基金のHPでもご覧いた
だけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが
事務局までご連絡をお願いいたします。

※発送経費を節約し、なるべく多くのお金を子どもた
ちの保養や医薬品に活用したいと思います。長期間、
ご寄付等お振込みのない場合は発送を停止させてい
たきます。

■ボランティア募集 ニュース発送作業(年3回:2・
6・10月) お手伝いいただける方を募集します。

次回は、2026年2月中旬の予定です。

場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋
駅ビル セントラルプラザ 10階)

※参加ご希望の方は、前日までにメールかお電話で
ご連絡ください。電話は平日午前10時~午後5時。
留守の場合は伝言をお願いします。

★編集後記★

来年のカレンダーを見て改めて、チェルノブイリ事故
から40年という年月を実感します。子ども基金が最
初に支援をした子どもたちは40代に、その親世代や
チェルノブイリ救援活動に関わってきた人たちは60代、
70代になっています。これまで多くの人たちと知り合

＊＊ ご協力いただいているみなさまへ ＊＊
振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知
らせと願います。

すべての方に振込用紙を同封しております
事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべ
ての方に郵便払込用紙をお送りしております。決
して募金を強要するものではありません。また、す
でに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦
ください。

払込取扱票のお名前・ご住所は楷書で ご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文
字がかすれて判読しづらい場合がございますの
で、楷書でわかりやすくご記入ください。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で受領確認の連
絡をご希望の方に、葉書(金額は記載せず)をお送
りします。振込用紙の該当欄に印をつけてくださ
い。

「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認めら
れる領収証です。大切に保管ください。別途領収
証がご入り用の際は振込用紙の該当欄に印をつ
けてください。

↑いました。そのような中、長年親しく交流をしてきたベ
ラルーシの60代の女性二人が病気で亡くなりました。
一人は保養施設「ナデジダ」の職員だったエレナさ
ん、もう一人は子どもたちを保養に引率していたマリヤ
さん。仕事のこと、家族のこと、人生のことなど、時間
を忘れて話すこともありました。まだ話したいことはた
くさんあったのに、残念でなりません。二人の笑顔と思
い出を胸に、これからも活動が続けていきたいと思います。
(事務局 佐々木)

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年3回(2・6・10月)発行●

住所 〒177-0041 東京都練馬区石神井町 3-16-15-408

Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

◇ウェブサイト <http://ccfj.la.coocan.jp/>

◇事務局ブログ <https://chernobyl1986.hateblo.jp/>



※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。